

らい 来ぶらり

2009 秋
No.84



図書館の
ナルホド
コラム!
!

NEWS

趣味を深める秋にしませんか？

としま図書館ネットワークが 10月1日スタート

豊島区目白の学習院に通学されるみなさんは豊島区立図書館（計7館）を直接訪れて利用できますが、さらに10月からは希望する資料を大学図書館へ取り寄せ、貸出を受けられる制度が始まります。

大学には多くの学術資料がありますが、趣味（スポーツ、ファッション、音楽、旅行 etc）の分野などは大学図書館の性格上取り揃えてはいません。例えば、長期休暇前に「旅行ガイドはどこですか？」と質問されても今までは「残念ながらほとんどないので公共図書館を訪ねて下さい」という回答しかできませんでした。これからは豊島区立図書館から取り寄せて借りるという新しい方法ができます。まずはどんな本

や雑誌があるのか豊島区立図書館の資料をホームページ（下記参照）から検索してみてください。

取り寄せ申込み窓口は大学図書館1階カウンターで、1人5冊まで2週間、大学全体で50冊程度借りることができます。入試期間中などサービス停止となる期間もありますので詳細は大学図書館ホームページをご覧ください。

（大学図書館 川中はるか）

豊島区立図書館の資料検索はこちらから：
<http://www.library.toshima.tokyo.jp/>
左側「資料の検索」→「検索・予約」と進みます。

Column 01

図書館も見た目が9割？

18 世紀の旅行者たちは旅をするとき、その町の図書館を見学したそうです。領主が集めた珍しい本や芸術品を見たり、それらを保管する図書館自体の美しさを称賛したりして、人々は図書館を楽しんでいたようです。

ヨーロッパでは、教会図書館から始まり大学図書館、領主の図書館など、時代によって図書館も変わっていきませんが、立派



プラハ ストラホフ修道院図書館

な建物を見事な彫刻や絵画で飾った美しい図書館が今でもたくさん残っています。図書館の所有者や設計者が、本の収集だけでなく図書館そのものを装飾することに力を入れてきたことの証拠です。では、現代の図書館にも装飾は必要なのでしょうか？

昔の人が図書館を飾り立てたのは、図書館を単に本をしまふ場所ではなく、人が集まる場所として考えていたためではないかと思えます。人々に自分のコレクションを披露する場であったり、キリストの教えを広める場であったり、目的は異なっても、根底には人に来てもらいたい、という気持ちがあったのではないのでしょうか。

そうだとすると、同じように人が集まる場所である以上、現代の図書館にも装飾は必要、と言えるでしょう。

現在求められているのは昔のように高価な彫刻や絵画で飾り立てるような装飾ではなく、利用者が過ごしやすいように家具や照明を配置するように意味での装飾だと思えますが、昔も今も、美しい図書館に人が集まるのは変わらないんですね。図書館だって、見た目が大事なんです。

(大学図書館 山本有里)



【参考】『ヨーロッパの歴史的図書館』
ヴィンフリート・レーシュブルク著
宮原啓子 山本三代子訳
東京 国文社、1994.5
(大図開架 010.23/8)

Column 02

図書館は出逢いの場!?

『耳をすませば』という映画を観たこと

がありますか？読書が大好きな主人公、月島雫は図書館で借りた本のブックカードに必ず書かれていた「天沢聖司」という名前に興味を持ち、胸をときめかせます。二人はその後知り合い、同じ年ながらしつかりとした夢を持つ聖司に影響されて雫も自分のやりたいことを見つけていくという、中学生の将来への不安や希望、それに恋心が爽やかに描かれている、とても素敵な作品です。



撮影：文学部哲学科2年 秋山直樹 (アキヤマナオキ)

このお話で二人の出逢いのきっかけとなっているのが図書館の本であり、それを借りた人の名前が書かれたブックカードです。でも、今では借りた人の名前が書かれたカードを見ることはほとんどないはず。映画の台詞にあるように「バーコード化」して機械処理するようになったからではありません。借りた人の記録が残る方式では、利用者のプライバシーが守られないという問題があって、同じカード貸出でも利用者の記録が残らない方式に替わっていったのです。

や秘密を守ります」と約束しています。人に知られて恥ずかしい本は読んでいないという人もいるかもしれませんが、自分が知らない所で、どんな本を読んでいるのか調べられたらちょっと怖いですよね。残念ながら、カードをきっかけとした運命的な出逢いはなくなってしまうのが、安心して好きな本を借りられる環境で、素敵な本と出逢ってほしいと思います。

【参考】『耳をすませば』
(監督：近藤喜文、制作：スタジオジブリ、脚本・絵コンテ・制作プロデューサー：宮崎駿 1995年公開)
『図書館の自由に関する宣言』(日本図書館協会 1954年採択 1979年改訂) 図書館活動の基本的な考え方、方針、姿勢。1979年「図書館は利用者の秘密を守る。」を第3項に追加改訂。
『誤解 守秘の姿勢反映されず 図書館は自由か：中(メディア)』(朝日新聞 1995年11月8日朝刊)

Column 03

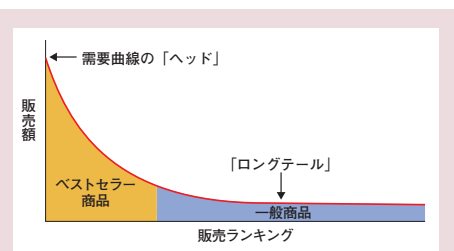
図書館の本を ネット販売しよう!?

長 年の間にたまった本や、雑誌を処分するのは一苦労である。私の部屋にもかなりの量があり、暇を見つけては捨てるなり売るなりを考えるが、なかなか実行できない。特に本は一度読んだからと言って捨てるにはもったいないし、まだ読んでいない本もたくさんある。しかし、物理的なスペースに限られる以上、買うことをやめるか、買った分と同じ量を処分するしかないであろう。

これは、私の部屋の話に限らず大学の図書館でも同じである。普段利用者は、本がどのくらい増えて、どのくらい処分されているかはご存知ないかもしれない。大学図書館では、年間約8000冊の本が購入されており(学習院全体では約4万冊)、一方で処分冊数は過去5年分でも2800冊程度。ちなみに、大学図書館の収容可能冊数は約51万冊で、現在約44万冊所蔵している。このままだと数年後

には、収まりきらずに床や本棚の上に平積みする状況になるかもしれない。しかし、収納できないと言われても、研究や勉強のために買う必要がある。米国では、処分した資料の再利用が行われており、ロングテール※の考え方を利用して、図書館の処分本をオンライン販売する図書館が約1300あるという。売上の一部は収益として得ており、「環境にも財布にも嬉しい」として活発に行われている。さて、学習院の図書館で

も実践したらどうだろう。ぜひ提案したいと思うが、保管場所の解決を目指す以上、それなりの冊数を処分していかなければならない。処分にあたっては、利用頻度の落ちた本、古い本という基準がまず考えられるが、それは研究や勉強に役に立たないわけではないので、大学図書館員としては唸ってしまい、果たして想像で終わらしてしまふ。やはり、本は平積みするよりほかにないかと思うのである。(大学図書館 米田岳史)



【参考】『ロングテール [マーケティング] [long tail]』。現代用語の基礎知識、ジャパンナレッジ(オンラインデータベース)、入手先<<http://www.jkn21.com>>(accessed2009-07-15)「環境にも、財布にも嬉しい図書館資料除籍法(米国)」カレントアウェアネス-E No.137 2008.10.15 (accessed 2009-06-15) ※ロングテールとは、「ほとんど売れない商品の販売額の合計がベストセラー商品の販売額合計を上回る現象を説明するため」に提唱された考え方。

Column 04

愛の誓いを、図書館で!

白 い大理石の階段を、真っ白なウェディングドレス姿で歩く……これがまさか図書館での光景だなんて、思わぬですよ。

ニューヨーク公共図書館は2007年の『New York Magazine Wedding Edition』の「ニューヨークの名所で挙式するならココ」という投票で第1位に選ばれたそうです。2008年に公開された映画『Sex and the City the Movie』で、主人公のキャリアがミスター・ビッグとの結婚式場として選んだのも、この図書館でした。

図書館のホームページでも、素敵な結婚式の写真が紹介されています。図書館だからシンプルなものかと思いきや、キャンドルを並べた階段を歩く花嫁の写真や美しくライトアップされた



ニューヨーク公共図書館 <http://www.nypl.org>

オシャレな会場の写真に驚くばかりです。もともと欧米では市役所や裁判所のような公共施設で結婚式を挙げる習慣があるので、図書館での挙式というのも違和感がないのかもしれませんが、日本人の感覚だとちょっとびっくりしてしまいますよね。

映画では結局、式の当日に新郎のミスター・ビッグが現れず、キャリアは逃げるように会場を後にするので、華やかなウェディングドレスをまとったキャリアが図書館の階段を駆け下りるシーンは完璧に画になっていて、悲しい場面にも関わらず、ここは最高の式場だと納得してしまいます。考えてみれば、映画の出会いのシーンなどで図書館が登場することもありますが、図書館は意外とロマンチックな場所なのかもしれませんね。(大学図書館 山本有里)

図書館の本は無料？

☒ 図書館で本を借りる時に、「それでは1泊2日で140円になり

ます」と言われたら、みなさんはびっくりしますか？実は、2005年1月1日以降、著作権の貸与権が書籍・雑誌へも適用されたことで、著作権者の許諾を得ないで、公衆に、書籍・雑誌を貸与することができなくなっています。つまり、本を貸すにも著作権者に許諾を得て一定の使用料を支払うことが必要となったのです。

例えば、TSUTAYA等でレンタルコミックを見かけると思いますが、これも一定の使用料を支払ってレンタル事業を行っているのです。え、じゃあ図書館も同じように使用料を払っているの？と思うかもしれませんが、図書館では著作権法第三十八条によって無料で貸出が行われています。著作権法第三十八条には、営利を目的とせず料金を受けない場合には、

著作権者に許諾を得ることなく貸与できる、とあります。

なんだ、結局、図書館の本は無料かよと思うかもしれませんが、この世にタダより高いものはないのであって、図書館の本は税金や学費で購入されていることを考えると、図書館の貸出は無料だと言えるでしょうか。みなさんも、身近にある無料の商品やサービスについて調べてみると、面白いかもしれませんね。

(大学図書館 米田岳史)



(営利を目的としない上演等) 著作権第三十八条

4 公表された著作物（映画の著作物を除く。）は、営利を目的とせず、かつ、その複製物の貸与を受ける者から料金を受けない場合には、その複製物（映画の著作物において複製されている著作物にあつては、当該映画の著作物の複製物を除く。）の貸与により公衆に提供することができる

「シヨジャクカン」って何？

皆 さんは「図書館」という名称がいつ頃から使われたのか、ご存知ですか。

8世紀初頭、現代の図書館に相当する機関の名称としては、大宝律令によって定められた図書寮（「和名抄」では「フミノツカサ」と読まれていました）がありました。その後、平安時代から江戸時代の末期まで有力な公家や武家などを中心に、個人的に収集した貴重な書籍を文庫と呼ぶ施設に保管する時代が続きます。

この文庫という名称は長く使われていましたが、明治10年頃より、欧米を参考とした近代的な公立図書館の普及がはかられてきた際には、書籍館（「シヨセキカン」、「シヨジャクカン」という二通りの読み方がありました）という名称を用いました。また、大学などに限っては、図書館（こちらも「トシヨカン」、「ツシヨカン」という二通りの読み方がありました）という名称を用いました。

用いました。二種類の名称は明治29（1899）年に公布された図書館令によって、「図書館」が法的に正式な名称となります。一方、書籍館という呼称は1900年代以降ほとんど使用されなくなりました。近年では印刷媒体だけでなく、デジタル資料やWeb上の情報資源を扱う図書館が多くなってきました。大学を中心に情報センターやメディアセンターなどの名称を用いてその機能を表現しています。「図書館」は100年後どの様に呼ばれているのでしょうか？

(大学図書館 山脇治)



参考文献：
『日本図書館史概説』
岩猿敏生著
日外アソシエーツ
2007
(大学図書館・開架010.21/26)

来ぶらり No.84 2009年10月1日発行

発行責任者：塩谷清人
編集委員：米田岳史・山本有里
学習院大学図書館
〒171-8588 東京都豊島区目白1-5-1
03-3986-0221 (代)
内2396 (レファンス)
内2397 (閲覧)
03-5992-1009 (閲覧直通)

表紙の写真について ———— 経済学部経済学科3年 中南 智(ナカミナミ サトル)

普段はGLIM/OPACを使って探した本を借りるくらいだったのですが、今回「図書館の不思議」をテーマに「来ぶらり」の写真撮影してほしいとの依頼を受け、撮影のために大学図書館やその周りを歩き回らる中で、自分にとって意外な本や面白そうだなと思う本に多く出会いました。それはパソコンに向かうことが多い私にとって、ベタな言い方ですが刺激的なものでした。行き当たりばったりでの出会いに、既知なものから連なる未知なものへの広がりを感じたのです。という話を拡大しすぎているとも思いますが、そのくらい新鮮な体験でした。それが「図書館の不思議」の一つのなかかと感じつつ、今回の写真を撮らせていただきました。

「来ぶらり」のバックナンバーは
(<http://www.gakushuin.ac.jp/univ/glim/collection/library/raiburari.html>) で公開しています。